

指導内容・方法の工夫

学力調査結果の概要

6年生の結果より

大泉小学校の平均正答率は、国語・算数・理科において全ての項目で都平均と全国平均を上回っている。国語では、特に、知識および技能では都平均・全国平均より大きく上回っている。集めた情報から自分の伝えたいことを考え、分かりやすく伝えられるように、構成メモを活用したり伝えたい内容を友達と検討したりすることを指導した結果である。算数では、どの項目においても都平均・全国平均を上回っている。しかしながら、記述式で理由や方法を説明する項目は正答率が低い。今後、身に付けた知識・技能を使って自ら考え、話し合うことで適切な表現ができるよう指導すること、また、タブレットを活用し、具体的に図形を考えられたり、グラフの推移を見られたりする指導を行う。理科では、「電気を通す物、磁石に引き付けられる物」、「差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現する」という問題の正答率が低かった。実験を通してより深く事象を検証したり検証したことを分かりやすく表現したりする指導を行う。

国語科指導の工夫

【国語科の見方・考え方】対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

「言語活動」の指導の充実

「言語活動」を充実させるには、的確に情報を理解し論理的に思考する力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う力、我が国の言語文化に触れ感性や情緒を育むことが重要である。そのため、「A 話すこと・聞くこと」や「B 書くこと」、「C 読むこと」の各領域を高めるためには、言語の美しさやリズムを体感させたり、発達の段階に応じて記録・要約・説明・論述といった指導の場面を生活場面と関連付けて設定したりすることで指導の充実を図っていく。

授業改善の具体策

児童が日常生活の中で興味や関心をもっていることから話題を決めたり、想起させたりすることなどを通して記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの課題場面を設定し、目的意識を高める工夫を行っていく。

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
第1・2学年	知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりする。	紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりする。	事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。
第3・4学年	図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりする。	疑問に思ったことを調べて報告する文章を書いたり、新聞に表したりする。	記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う。
第5・6学年	調べたことやまとめたことについて討論などをする。	意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする。	編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む。

文章で表された情報をもとに「考える力」の育成

「思考力、判断力、表現力等」の「考える力」を育むためには、感じたり想像したりする力を養ったり、人との関わりの中で伝え合う力を高めたり、教材文を読むことを通して自分の思いや考えをもてるようにしたりと系統的に学ぶ必要がある。また、「情報の扱い方」においては、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かせるように、集めた情報を分類したり、関係付けたりした後に伝え合う場面を設定するなどの指導の工夫を行っていく。

授業改善の具体策

「考える力」を育むためには、教材文が「分からない」から「分かる」へ、さらに、「分かる」から「より分かる」ように児童を変容させる必要がある。そのために、「文章を読み解く視点」を教材文に合わせて意図的・計画的に示し、深い読解ができる授業を

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
事柄の順序 場面の様子 順序に従って内容をおさえたり、場面の様子に気付きながら読み取ったりする。	内容の中心 段落相互の関係 文章の部分としての段落、段落と段落との関係、文章全体の関係、大事なところはどこかなど、筆者の主張や述べ方に目を向けさせる。 説明的文章…中心語句、中心文、中心段落 文学的文章…物語の山場、感動的な場面	内容の把握 要旨の把握 作者や筆者の述べたい内容や述べ方を捉える。それぞれの文章のもつ表現や文体に表れた意図や工夫、論理等をおさえながら自分なりの読み取り方をし、意見をもつ。

情報の扱い方	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
情報と情報との関係	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解すること。	原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うこと。	情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

社会科指導の工夫

【社会的事象の見方・考え方】 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

問題を追求・解決する学習

社会科においては、児童が課題を追究したり解決したりする問題解決的な学習過程を充実させることが大切である。問題解決的な学習過程の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現するよう、児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程を工夫する必要がある。

《社会科における問題解決の過程》

課題把握	課題追求	課題解決
動機付け(つかむ) 方向付け(見通す) ・児童の意欲を喚起し、主体的な学びを引き出す問題場面の設定。	情報収集(調べる) 考察・まとめ ・資料から情報を読み取る技能を高める。 ・特徴、違い、共通点など資料を読み取る際の視点を明確に示す。	まとめ ひろげる ・学んだことをまとめたり、生活や社会と結び付けたりするとともに、自分なりに考えたり、選択・判断したことを表現したりする場面の設定。

各学年の段階に応じて、観察、調査したり、地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用したり、社会的事象の意味や働きなどについて考え、表現したりする力を育成するための指導の充実を図る。

第3・4学年	第5学年	第6学年
・資料から必要な情報を読み取る。 ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。 ・資料から読み取ったことを表現する。	・資料から必要な情報を読み取る。 ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。 ・複数の資料を関連付けて読み取る。 ・資料から読み取ったことや考えられることを表現する。	・資料から必要な情報を的確に読み取る。 ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える。 ・複数の資料を関連付けて読み取る。 ・資料の特徴に応じて読み取る。 ・資料から読み取ったことや考えられることを表現したり交流したりしながら自分の考えをまとめ、表現する。

算数科指導の工夫

【数学的な見方・考え方】 事象を数量や図形およびそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。

問題発見・解決能力を身に付ける学習

算数科においては、問題を解決したり、判断したり、推論したりする過程において、主体的に見通しをもち筋道を立てて考えたり表現したりする力を高めていくことを重要なねらいとしている。既習の学習内容を基に考えさせたり、既有経験を生かして問題解決させたり、体験的に理解することを通して自ら課題を見付け、主体的に問題を解決する能力を身に付けさせる指導を行う。

■■■授業改善の具体策■■■

「課題をつかむ(何を学ぶのか)」「見通しをもつ」「自力解決」「集団検討」「振り返る(何を学んだのか)」などの問題を主体的に解決する過程を意識的に授業に位置付け、主体的に見通しをもち筋道を立てて考える力を育成する。また、児童が具体物や半具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いたりして、自分の考えたことを表現したり、友達に説明したりする作業的・操作的・体験的な算数的活動を取り入れ、テープ図や線分図、数直線などを操作的な「問題解決のアイテム」として使いこなせるよう、継続的、発展的に指導を行う。特に、言葉で説明することに課題のある児童が多いので、日常的に「自分の言葉で書く」活動を意識的に授業に取り入れていく必要がある。

《見方・考え方》

既習事項を組み合わせる新しい概念を形成するときに用いる考え方

内容(単位の考え、式など)

方法(帰納、類推)

態度(筋道を立てた行動)

《学び方の指導》

主体的な学び体験

課題をつかむ

見通しをもつ

自力解決

集団検討

振り返る

問題を科学的に解決する学習

理科において、各学年で重点を置いて育成すべき科学的な思考力は右のように示されており、問題解決的な学習が重視されている。児童が自然の事物・事象に関心をもち、そこから問題を見だし、解決する方法を考え、観察・

実験などを行うことにより結果を得て、解決過程や結果について個人で考察をしたり、相互に話し合ったりしながら結論を導く。このような手順を通して、見方・考え方を働かせながら、科学的な知識・技能や問題解決の力などを身に付けることのできる指導を行う。

■■■授業改善の具体策■■■

本年度の学力テストの結果から、理科において「電気を通す物、磁石に引き付けられる物」といった性質理解に関する問題や、「差異点や共通点を基に新たな問題を見出し表現する」といった思考力に関する問題の正答率が低かったことが明らかとなった。これを踏まえ、授業改善の具体策として次の点を重視する。

- 導体・非導体や磁性・非磁性の分類を多様な素材で行い、表や図などに整理して規則性を可視化し、誤概念を議論や実験で修正することで性質理解を確実にする。
- 比較・関係付けを通して問題を発見する活動を強化し、「何が同じで何が違うか」「条件を変えるとどうなるか」を意識させ、実験後には「わかったこと」だけでなく、「次に調べたいこと」をノートに記録させなどで探究の継続性を高める。
- 授業での実験・観察だけで学習を終わらせず、学習内容を生活の中で応用できる課題(例:家庭で使う道具の材質調べ)を取り入れることで、学びを実生活に結び付ける工夫を取り入れる。
- 「自分ごと」として主体的に取り組めるよう、学習課題の選択肢を提示したり、結果を発表し合ったりする工夫を行う。
- 考察や結論の表現において比較や条件制御の観点を明示し、科学的表現力を育成する。

これらの取組を通じて、児童が生活と結び付けながら主体的に探究を進め、中学校での実験的探究へ円滑につながる学びを実現していきたい。

《理科における問題解決の過程》

